だんなさんもやはりそれまでこうなったのが子供に、愛情もだし、時間もだし、ほとんどとられてしまうので、そのようなので男の人は赤ちゃん返りしてしまう部分があると思う。

H女　絶対ありますね。

S女　寂しいといいますか。だから、「おいおい、おまえ、それでも父親かよ」というぐらい、一番赤ちゃんになってしまったりもして。それで、「やっぱりそうじゃいけないな」とパパらしくしてみたりとかするけれども、そのようなのでは頼りがいのあるパパになっている反面、一番赤ちゃんになっているのはパパだよというような感じはある、子供がいると。

O男　それは、またお子さんが成長する過程でだんなさんのスタンスもやはり変わってくるのですかね。「もっと父親らしく」と思うのですかね。

S女　どこのパパも多分頑張っているのだろうけれども、時々にみせる姿というか、「あれ、こんなに子供だったかな」と。うちなどは10歳年上だから、情けなくてしようがないという感じなのだけれども、そのようなところが出てきて、「いいかげんにしろよ、おまえの面倒なんか見てる場合じゃないんだよ」と思うのだけれども、「ああ、寂しいんだろうな」とかも思うし。

H女　姉がちょうど子供を産んだばかりで、今、子供が1歳半ぐらいなのです。やはりすごく関係がおかしくなってきていて、すごく仲がよかったのに、喧嘩とかもすごくするようになって、姉のほうが多分あまりだんなさんに愛情がなくなってきているようで。というのは、「自分が望んでいることをやってくれない」というような。

S女　「言われればやるよ」って。「そのお皿洗っといて」「何とかやっといて」と言うものではないでしょう、やはり。

H女　そうそう。

S女　何というのかな、何をやってくれるよりも、思いやりが欲しいのです。気持ちが。

H女　そう。それはすごく言っていました。「物じゃない」と言っていました。「どこか行ってこいよ」と言われるけれども、そのようなことではなくて、思いやりの、だから、「大丈夫、疲れてる？」とか、そのような言葉をかけてほしなと言っています、よく。

S女　お互いに余裕がなくなってしまうのだね。

H女　そうそう。見ていてすごく思いました。

O男　さっき、言っていたのだけれども、結婚して、相手にわかってほしい、だから言わないという話がありましたね。それ、気づいてよというような。

H女　わかっていて当たり前というような。「何でこの人、気づかないの？」というような。

K男　どうなのだろう。それって、僕だったら我慢できないから、言ってしまうけれども。

S女　言ってしまうと喧嘩になるのだけれども、やはり気がつかないものは気がつかないしと、そう思っているときは、やはり自分が私に対して何かをしてよ、してよという自分の要求ばかりで、相手にそれを求めているくせに・・・。求めているから、自分自身が相手に対しても思いやりが多分ない。余裕がなくて。

H女　きっとそうですね。

S女　だから、「何であんたは気がついてくれないのよ」だけれども、向こうも多分同じことを感じているだろうなというのは思う。

H女　多分、今わたしの姉が本当に精神的に余裕がない状態だから、周りで見ていると、もっとだんなさんのほうにも気を使っ

てあげればいいのにと思うところがすごくあって。だから、多分本当に今きっと余裕がない状態なのだろうな。
S女　みんなどこも多分、子供が生まれたらそうなるだろうなと思う。それまで仲よくなっていても。そこをどう乗り越えるかなのかなと。
H女　どうやったら乗り越えられるのですかね。やはり話し合うこと？
S女　話し合って、やはり・・・。私ははものすごく気が強いから、相手に対する不平不満でものすごくとがっていたりもしたのだけれども、自分も相手に対して全然思いやりがないなというのを結構思って。それに気がついてから、自分の態度を変えた。
H女　ああ、なるほどね。
S女　ちょっと余裕が出てきた。余裕がといいますか、本当にもう離婚するかなと思って。子供が余り大きくならないほうがいいし、どうせ離婚するならと思っていたけれども、そこでいろいろ考えて、ちょっととまった感じ。
H女　ちょっと冷静に。
S女　そうそう。「あ、自分も、子供が生まれる前とは明らかに変わっちゃってたよな。余裕がなさ過ぎたよな」と思って。
O男　でも、そのような意見も何かやはり母親的な発想なのかなと思う。
S女　そうかもしれない。そのように絶対考えられなかったと思う。
H女　父親と母親って子供に対する愛情とかも違う気がする。どうですか？　わたしは何か違う気がするのです、見ていて。自分の親もそうなのですけれども、お父さんとお母さんの愛情のかけ方がやはり、母親は「守ってあげる」というような、わけもなく抱きしめてあげるといいますか、やはり父親は頭で考えているといいますか、母親はもう本能で守ってあげる。父親は頭で考えて・・・。
S女　お父さんは、だから、ピントがずれていたり的を外していたりとかすることがほとんどかなと。

—突然ですが、是非伺いたいので・・・セックスとりわけ避妊に関してのコミュニケーションは取れていますか

O男　実際今の僕のイメージといいますかあれなのですけれども、今の彼女は結婚するかもなというのが大分ビジョン的に見えてきたので、例えばセックスするときでも、「じゃあ、しようか」と。僕は前はうまくやれなかったのだけれども、今は相手を傷つけたくない、変なことで。だから、確実に避妊は今はしようと思っているし。時が来たら確実につくりたいから、むだな負担をかけたくないというのもあるのですけれども。あとはやはり年がそうさせたのか、それともそのような相手が見つかったからむしろ大切にしたいのか、よくわからないですけれども。
H女　それの両方ではない？　きっと。
S女　避妊をしようという概念といいますか、そのようなのは若いころは全然なかったわけですか？
O男　いや、もちろんありましたけれども、例えば、変な話、ごめんなさいね、要するにアイテムがなかったら、若いころはもう我慢できないではないですか。
H女　アイテムって？
O男　コンドームとか。「まあ、いいや」というような。
S女　そのようにやはり押し流されてしまう？
O男　自分の性欲に勝てなかったですね、昔は。
S女　昔は。
O男　だから、今考えると、それは自分が単に若かったのか、それとも、今だったら

恐らく我慢できると思うのですけれども。
S女　そのように大切だと相手のことを考えられるようになったのというのは結構年がいってからですか？
O男　そうだと思います。特に今の彼女はそう強く思います。結婚しても、それは欲しくないと思えば、普通に……。
H女　わたしたちは避妊している、今。まだちょっと自信がなくて。自分にも自信がないし、仕事したいなというのもあるし。別に、産んで育てられないことも絶対ないとは思うのだけれども、なかなかそれなりに女性は制限されることもたくさんあると思うし、何と言えばいいのだろう……。
S女　でも、だから、どちらがというわけではなくて、ご主人もちゃんと当たり前のように普通に避妊するわけでしょう？
H女　そうですね、絶対にそれは。
O男　その真意はわかってくれているの、彼は？
H女　それは話をしているから、わかってくれているし。
O男　尊重しているのですね。
H女　そのようなことは結構わかってくれる人というのが、結婚してからわかった。今までそのような話をしたことがなかったから、「あ、こんなにちゃんと考えてくれるんだ」といいますか、わたしの意見を……。やはり子供を産むのというのはそんなに、「女性が産むんだから」とかそこまでは思わないけれども、やはり女の人が1年とか温めて温めて、行動とかもいろいろ制限されたりとか、食べるものに気をつけたりだとか、すごく大変だと思うの、わたしとしては。
S女　妊娠中も生まれてからも、やはり思い切りリスクね。もちろんは仕事できないし。
H女　仕事できないし、だんなさんが帰ってくるまで家の中で2人はずっと家の中にいたりとか、結構つらくなったり、だから、ノイローゼになったりとかするのもすごくよくわかるし。そのようなのもやはり今、主人はいろいろ多分自分なりに考えて、「女性が産んでくれる」ではないけれども、そのような思いをするのはやはり女性だし、「やりたいことをやってから産めばいい」と多分・・・。やりたいことをやり尽くして産むことなどは絶対にできないけれども、だけれども、あなたが産みたいと思うときまで待つと・・・。でも、すごく欲しいのです。欲しいのはすごく、見ていてわかるけれども、それは言えないですね、多分。「早く産んでよ」などと言われたら多分わたしのほうがすごく嫌な気分になるし。「じゃあ、おまえが産め」とかになってしまうし。その辺は多分男の人が理解しないと絶対いけないことだと思うし。
O男　それこそやはりお互いの同意のもとでということだね。
H女　「あ、嫌だ、できちゃった」などと思ったら、子供に申しわけないし、「嫌だ、こんなときに」などと思うのも絶対嫌だし。だから、ちゃんと自分なりに「もう大丈夫。産みたい」と思ったときに産みたいなと思う。
O男　ちょっといい話。

—さて時間も迫ってまいりました。最後にこの話し合いで感じたことをお話しいただき、まとめにしたいと思います

O男　漠然としたイメージですけれども、I男さんの親と子のコミュニケーション・スキルから始まり、いろいろなことはやはりいろいろな形で僕らは学んでいくと思うのです、男も女も。多分学ばなければそこでいろいろなものがストップするし。男と女は、シーソーのようなものなのですかね。僕はさっきバランスと言いましたけれども、

バランスをどうとるのかというのはまた難しいところだと思うのです。相手が重過ぎてもだめだし。「この木、育てなきゃ」と思って２人して同じ分だけ水をあげ過ぎても、多分枯れるでしょうし、「相手が上げるだろう」と思って、上げなければ、その木も枯れるだろうしというような感じですね。やはり、僕は男なのでそう思うのですけれども、結婚したからこそ話さなくてはいけないことがあると思うのです。勝手に「いや、わかってくれるだろう」というのは多分なかなか伝わらないところもありますから。

S女　そうまでならずに、結婚していなければ別れてしまえば済むというのを、結婚しているから一々話さなくてはいけなくて、たくさん話すようになるのだと思う。

H女　でも、それもありますね。

I男　そうですね。僕は高校時代は家にもずっと帰っていなかったというのもあって、かなりあほぼんしていまして。でも、本当に自分がやっていること、さらに女の人の傷つくこと、それを学ばせてもらったのは学校の先生でもないし、父親でもなくて、自分らの同期だったのです。それに気づくまでが２年か３年ぐらいあったのですけれども、でも、すごくそれをネタにけんかをしたときがありまして。それまで本当につき合ったという経験がなかったのですが、それからガラッと１８０度変わって、僕のつき合い方のような感じになったのですけれども。多分その経験がなかったら、このように普通に仕事とかもしていなかったと思いますし。

O男　きょうの話し合いを聞いていて、またちょっと結婚観が変わったし。

H女　え、どう変わった？

O男　何だろう。それはまだ、具体的にどう言えと言われたら、ないかもしれない。それはやはり話を聞いて自分に置きかえるわけでしょう。自分だったらどうだろうと。

S女　でも、シーン、シーンでみんな形態が変わっていかないとだめだと思う。

O男　そうですね。独りよがりではやはりだめだな。

S女　だから、別にこのような場がなくても、やはりみんな考えなくてはいけないのだ。

O男　それは結婚してからもね。

―ありがとうございました

まとめ

アンケート同様、結論を見つけ出すことは難しいのだが、全体を通して読み進めていくと、『ありのままの自分を受け入れてくれる』相手の存在が大切だという共通した思いが見え隠れする。「違う自分を見せようとして逆にぐちゃぐちゃになってしまう」、「肩に力が入っているような人と付き合っているうちは、結婚しないと思う」という彼らの言葉からも読み取れる。

結婚後、出産後での変化も興味深いところであるが、「自分の欲求ばかりで、自分自身が相手に対しても思いやりがない、それに気がついてから、自分の態度を変えた」と自分を見つめる余裕がでてくるのも、必要に迫られたとはいえ、夫婦双方が気持ちをさらけ出しコミュニケーションを重ねた結果であろう。

子どものころ家族とのコミュニケーション不足と異性との付き合いが途絶えなかったことを関連づけた自己分析や、その替わりに友人から付き合いを学んだという思いは興味深い。

避妊に関するところでは、彼女との関係

が真剣だからこそ、確実なものとしたいという考えは、是非若い世代に伝えたいものだ。結婚相手に自分の思いを伝えることによって「ちゃんと考えてくれている」と気づけたものの、女性にとっての出産、育児と社会参加とのジレンマもひしひしと伝わり、やはり女性にとって避けて通ることのできないテーマであり、パートナーとのコミュニケーションと理解なしでは解決の糸口は見つからない。

「話し合わなくては、独りよがりではだめ」期せずして参加者が述べた感想が本テーマのまとめとなるようだ。

わが国における性行動と避妊に関する意識と実態

東邦大学第1産科婦人科学教室／リプロ・ヘルス情報センター　菅　睦雄

社団法人日本家族計画協会常務理事／クリニック所長　北村　邦夫

全国都道府県の市区町村を単位として11地区に分類し150地点より無作為に抽出して「男女の生活と意識に関するアンケート調査」を満16歳から49歳までの3,000名を対象にして行い、回収し得た1,580名（回収率52.7%）のアンケート結果を集計し解析に供した。その内訳は男性690名、年齢は16歳から49歳で平均年齢33.7±9.1歳、女性890名、16歳から49歳で平均年齢34.7±9.0歳であり、女性のほうに約1歳年齢が高く有意差（$p<0.05$）を認めた。その5歳階級別の年齢構成分布をみると女性の40歳代がやや多かったためと思われる。

Ⅰ．調査対象の背景

1. 兄弟姉妹

対象者の兄弟姉妹の有無については、いないという一人っ子は男性で77名（11.2%）、女性65名（7.3%）であり、男性に一人っ子が多く有意差（$p<0.05$）を認めたが、兄弟姉妹の数は男性で平均1.7±0.9、女性1.7±1.0であり、両者間に有意な差は認めなかった。

表1．5歳階級別調査対象者の分布

年代	男性	女性	総計
<19	47(6.8)	55(6.2)	102(6.5)
20-24	86(12.5)	87(9.8)	173(10.9)
25-29	105(15.2)	113(12.7)	218(13.8)
30-34	112(16.2)	176(19.8)	288(18.2)
35-39	137(19.8)	153(17.2)	290(18.4)
40-44	101(14.6)	148(16.6)	249(15.8)
45<	102(14.8)	158(17.8)	260(16.5)
総計	690(100.0)	890(100.0)	1580(100.0)

2. 職業

調査対象の職業は、男性では68.3%が常勤職についており、非常勤職は僅か6.7%であった。自営業は 10.0%であり、学生は12.0%であるも 10 歳代では 87.2%を占めていた。女性は常勤職が28.3%、主婦29.0%、非常勤職27.6%、学生7.0%であり、10歳代では学生が85.5%、20歳代は約4割弱が常勤職であり、30歳代は4割が専業主婦で、40歳を越えると3割強から4割弱が非常勤職主体となっていた。女性の場合は20歳代までは常勤職主体で 30 歳代に入ると専業主婦、子育てが安定してくると非常勤職へと推移しており、わが国の年代別就労状況がよく反映されていると考える。

表 2-1. 5歳階級別職業の分布（男性）

性	年代	常勤職	非常勤職	自営業	学生	主婦	無職	不明	総計
男性	<19	1(2.1)	2(4.3)		41(87.2)		3(6.4)		47
	20-24	31(36.0)	13(15.1)	2(2.3)	37(43.0)		3(3.5)		86
	25-29	80(76.2)	9(8.6)	8(7.6)	5(4.8)		2(1.9)	1(1.0)	105
	30-34	91(81.3)	6(5.4)	13(11.6)			1(0.9)	1(0.9)	112
	35-39	109(79.6)	8(5.8)	15(10.9)			4(2.9)	1(0.7)	137
	40-44	80(79.2)	3(3.0)	15(14.9)			3(3.0)		101
	45<	79(77.5)	5(4.9)	16(15.7)			2(2.0)		102
	合計	471(68.3)	46(6.7)	69(10.0)	83(12.0)		18(2.6)	3(0.4)	690

表 2-2. 5歳階級別職業の分布（女性）

	年代	常勤職	非常勤職	自営業	学生	主婦	無職	不明	総計
女性	<19	4(7.3)	3(5.5)		47(85.5)		1(1.8)		55
	20-24	33(37.9)	23(26.4)	3(3.4)	15(17.2)	10(11.5)	3(3.4)		87
	25-29	45(39.8)	27(23.9)	3(2.7)		34(30.1)	4(3.5)		113
	30-34	51(29.0)	42(23.9)	6(3.4)		70(39.8)	6(3.4)	1(0.6)	176
	35-39	36(23.5)	42(27.5)	14(9.2)		55(35.9)	6(3.9)		153
	40-44	38(25.7)	49(33.1)	15(10.1)		45(30.4)	1(0.7)		148
	45<	45(28.5)	60(38.0)	8(5.1)		44(27.8)	1(0.6)		158
	合計	252(28.3)	246(27.6)	49(5.5)	62(7.0)	258(29.0)	22(2.5)	1(0.1)	890
	総計	723(45.8)	292(18.5)	118(7.5)	145(9.2)	258(16.3)	40(2.5)	4(0.3)	1580

3. 婚姻関係

婚姻関係についてみると、男性では未婚43.2%、初婚47.8%、再婚2.2%、離婚4.9%、死別2名0.3%で不明が1.6%であった。女性は未婚28.3%、初婚63.6%、再婚2.8%、離婚4.4%、死別1名0.1%で不明が0.8%であり、男性に比べ未婚が少なく初婚が多かった。これを年代別にみると、男性は30

歳前半で未既婚が逆転しているのに対し、女性は20歳後半で既婚者が半数を占め、初婚年齢が2001年で27.1歳というところと概ね一致するところと考える。

表3-1. 5歳階級別姻戚関係の分布（男性）

性別	年代	未婚	初婚	再婚	離婚	死別	不明	総計
男性	<19	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47
	20-24	94.2	3.5	0.0	0.0	1.2	1.2	86
	25-29	61.0	33.3	0.0	4.8	1.0	0.0	105
	30-34	37.5	52.7	2.7	6.3	0.0	0.9	112
	35-39	25.5	66.4	1.5	3.6	0.0	2.9	137
	40-44	18.8	70.3	1.0	8.9	0.0	1.0	101
	45<	9.8	69.6	8.8	7.8	0.0	3.9	102
合計		43.2	47.8	2.2	4.9	0.3	1.6	690

表3-2. 5歳階級別姻戚関係の分布（女性）

性別	年代	未婚	初婚	再婚	離婚	死別	不明	総計
女性	<19	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55
	20-24	79.3	19.5	0.0	1.1	0.0	0.0	87
	25-29	45.1	51.3	0.0	2.7	0.0	0.9	113
	30-34	26.7	67.0	1.1	4.5	0.0	0.6	176
	35-39	9.8	76.5	5.9	7.2	0.0	0.7	153
	40-44	6.8	81.1	6.8	3.4	0.7	1.4	148
	45<	3.2	86.1	2.5	7.0	0.0	1.3	158
合計		28.3	63.6	2.8	4.4	0.1	0.8	890
総計		34.8	56.7	2.5	4.6	0.2	1.1	1580

職業と姻戚関係の構成についてみると、男性は未婚者で47.3%が常勤職と半数を下回っているが学生が27.9%と多くが含まれているためと考える。また、女性では同様に未婚者は学生が24.6%で、常勤職は44.4%であるが、婚姻すると主婦となるのが43.1%と多くなるが、離婚し再婚者では非常勤職が40.0%と増え、離婚での単身者は常勤職が61.5%と高値を占めていた。また、未婚で3名（1.2%）が主婦となっているが、3名とも親と同居しており、1名は37歳、2名が45歳であり共に子どもが1人か2人持っているため、シングルマザーかと考える。

表 4-1. 職業と姻戚関係の構成（男性）

性別	結婚有無	常勤職	非常勤職	自営業	学生	主婦	無職	不明	総計
男性	未婚	47.3	12.4	7.4	27.9	0.0	5.0	0.0	298
	初婚	87.0	1.2	11.2	0.0	0.0	0.3	0.3	330
	再婚	66.7	13.3	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15
	離婚	73.5	8.8	11.8	0.0	0.0	5.9	0.0	34
	死別	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
	不明	63.6	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	18.2	11
合計		68.3	6.7	10.0	12.0	0.0	2.6	0.4	690

表 4-2. 職業と姻戚関係の構成（女性）

性別	結婚有無	常勤職	非常勤職	自営業	学生	主婦	無職	不明	総計
女性	未婚	44.4	21.0	2.4	24.6	1.2	6.3	0.0	252
	初婚	19.3	30.4	6.5	0.0	43.1	0.5	0.2	566
	再婚	16.0	40.0	12.0	0.0	32.0	0.0	0.0	25
	離婚	61.5	23.1	5.1	0.0	2.6	7.7	0.0	39
	死別	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	1
	不明	42.9	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	7
2 合計		28.3	27.6	5.5	7.0	29.0	2.5	0.1	890
総計		45.8	18.5	7.5	9.2	16.3	2.5	0.3	1580

4. 子どもの数

調査対象者の子どもを保有する数については、男性で平均 1.7±0.5 人（1−9 人）、女性は 1.7±1.0 人（1 - 8 人）であった。それを 5 歳階級別についてみると表 5-1,2 のとおりである。

表 5-1. 5 歳階級別子どもを持っている数（男性）

性別	年代	1	2	3	4	5	6	7 人	無回答	有子供	総計
男性	<19									0	47
	20-24	7.7	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4	
	25-29	56.5	52.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	27	105
	30-34	61.8	85.3	11.8	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	56	112
	35-39	25.9	58.0	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	85	137
	40-44	28.6	61.2	44.9	12.2	0.0	0.0	0.0	2.0	73	101
	45<	23.0	52.7	25.7	6.8	0.0	0.0	0.0	1.4	81	102
合計		13.3	23.6	9.0	1.8	0.1	0.0	0.1	0.7	326	690

表 5-2. 5 歳階級別子どもを持っている数（女性）

性別	年代	1	2	3	4	5	6	7人	無回答	有子供	総計
女性	<19									0	55
	20-24	40.6	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15	87
	25-29	68.3	39.0	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	46	113
	30-34	37.6	41.3	11.9	4.6	0.9	0.0	0.0	2.8	108	176
	35-39	31.8	81.2	25.9	2.4	1.2	0.0	0.0	7.1	127	153
	40-44	22.1	50.0	30.3	2.5	0.0	0.8	0.0	2.5	132	148
	45<	7.7	54.9	33.8	4.2	0.0	0.0	0.0	1.4	145	158
合計		16.8	30.9	13.8	1.9	0.2	0.1	0.0	1.6	573	890
総計		18.7	34.0	14.3	2.3	0.2	0.1	0.1	1.5	899	1580

以上のような背景を持つ男性 690 名、女性 890 名、計 1,580 名から得られた情報より、「わが国における性行動と避妊に関する意識と実態」について検討を加えたので以下に報告する。

Ⅱ. 性意識について

1. 異性とのかかわり

男女の関係性についての問いとして、「異性と付き合う」という言葉に対する考えであるが、男女ともに多かったのが「一緒の時間・人生を生きるものとしての関係」と捉えるのであり、男性 279 名（40.4%）、女性 354 名（39.8%）であった。次に多かったのが「ひとりにしぼられた特定の相手との関係」で男性 157 名（22.8%）、女性 261 名（29.3%）であり、女性に多く有意差（$p<0.01$）を認めた。このことは男女とも「異性との付き合い」は人生を生きるものとしての関係であり、そして「一人に絞られた特定の関係」と一人に特定する考えが女性に強いことが示された。

表 6. 異性との付き合うことへの意識

性別	年代	セックスの関係	一緒の時間・人生	特定の相手との関係	結婚を対象	かけがえのない	この中にない	無回答	総計
男性	<19	0.0	40.4	21.3	4.3	10.6	23.4	0.0	47
	20-24	5.8	36.0	20.9	7.0	10.5	17.4	2.3	86
	25-29	4.8	46.7	21.9	11.4	2.9	11.4	1.0	105
	30-34	4.5	39.3	19.6	10.7	4.5	17.0	4.5	112

	35-39	3.6	41.6	25.5	17.5	2.2	6.6	2.9	137
	40-44	3.0	38.6	28.7	9.9	5.0	11.9	3.0	101
	45<	2.0	39.2	19.6	13.7	6.9	16.7	2.0	102
合計		3.6	40.4	22.8	11.6	5.4	13.8	2.5	690
女性	<19	1.8	43.6	23.6	1.8	9.1	16.4	3.6	55
	20-24	1.1	49.4	20.7	6.9	5.7	12.6	3.4	87
	25-29	1.8	38.9	35.4	8.8	0.9	14.2	0.0	113
	30-34	2.3	36.9	27.8	10.8	5.1	15.9	1.1	176
	35-39	2.6	41.8	35.3	5.2	3.9	8.5	2.6	153
	40-44	0.7	35.8	34.5	6.8	3.4	16.2	2.7	148
	45<	3.2	38.6	22.8	17.7	4.4	10.8	2.5	158
合計		2.0	39.8	29.3	9.2	4.3	13.3	2.1	890
総計		2.7	40.1	26.5	10.3	4.7	13.5	2.3	1580

そのような考えの中で異性と付き合った経験のあるものは、男性で511名(74.1%)、女性 699 名(78.5%)であり、その開始時期は男性 17.7±4.3 歳 (n=477)、女性 17.7±3.4 歳(n=661)であった。言い換えるなら、高校生の頃が異性としてのかかわりを持つ重要な時期ともいえよう。

2. 性情報（避妊法の情報について）

性情報の入手先として避妊方法について、男性は友人 30.0%、教師 23.6%、マスメディア 20.9%と続いていたが、女性では教師 31.2%、友人 21.0%、マスメディア 20.4%の順であり、女性は学校教育の一環のなかに組み入れたために高い値を示していると考えられ、若い男性の中でも多くなっていることからも性教育が取り上げられてきている現況が窺われる。いずれにしても親兄弟よりも友人関係からの情報が未だ多いことは、家庭内での性に関する話題を取り上げられる環境作りも大切ではないかと考える。

表 7. 避妊方法の知識の入手先

性別	年代	教師	医師	親	兄弟	大人	友人	マスコミ	インターネット	自然に	学ばない	無回答	総計

男性	<19	59.6	0.0	0.0	0.0	0.0	19.1	4.3	0.0	4.3	12.8	0.0	47
	20-24	31.4	2.3	0.0	0.0	1.2	25.6	10.5	1.2	16.3	8.1	3.5	86
	25-29	28.6	0.0	0.0	0.0	1.9	28.6	15.2	1.0	20.0	3.8	1.0	105
	30-34	24.1	0.9	0.9	0.9	1.8	32.1	19.6	0.0	10.7	7.1	1.8	112
	35-39	18.2	0.0	0.0	0.0	2.2	31.4	27.0	0.0	12.4	6.6	2.2	137
	40-44	18.8	1.0	0.0	0.0	1.0	33.7	21.8	0.0	14.9	6.9	2.0	101
	45<	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	32.4	35.3	0.0	16.7	2.9	5.9	102
集計		23.6	0.6	0.1	0.1	1.3	30.0	20.9	0.3	14.2	6.4	2.5	690
女性	<19	56.4	0.0	0.0	0.0	0.0	14.5	10.9	0.0	12.7	3.6	1.8	55
	20-24	40.2	0.0	2.3	0.0	0.0	19.5	14.9	1.1	13.8	4.6	3.4	87
	25-29	46.0	0.9	0.9	0.0	0.0	15.0	18.6	0.0	14.2	4.4	0.0	113
	30-34	31.3	1.7	3.4	0.6	0.0	23.3	20.5	0.0	13.6	3.4	2.3	176
	35-39	24.2	1.3	3.3	0.0	0.0	26.1	23.5	0.0	14.4	5.2	2.0	153
	40-44	23.6	6.8	0.0	0.0	0.7	21.6	20.3	0.0	16.9	7.4	2.7	148
	45<	20.9	5.1	0.0	0.6	0.6	20.3	25.3	0.0	20.3	5.7	1.3	158
集計		31.2	2.7	1.6	0.2	0.2	21.0	20.4	0.1	15.5	5.1	1.9	890
総計		27.9	1.8	0.9	0.2	0.7	24.9	20.6	0.2	14.9	5.6	2.2	1580

3. 中学生のセックスに対する認識

中学生がセックスをすることについての考えを聞いているが、「妊娠や性感染症について、自分で責任の取れる年齢や立場になってからすべき」と考えるのが男性で 379 名（54.9%）、女性 621 名（69.8%）で女性が有意(p<0.001)に高値を示していた。この考えは男女とも高齢になるにつれ高くなっているものの、女性側にその傾向は強く現れていた。逆に、「セックスをするかしないかは、中学生であっても個人の自由である」という考えを持つのが男性 155 名 (22.5%)、女性 107 名(12.0%)と男性に多く有意さ（p<0.001）を認めた。この考えは若年者に多くみられ男性の 20 歳未満では 40%を超えていた。

さらにこの考えを未婚者と有配偶者についてみると、「自分で責任の取れる年齢･･･」との考えでは未婚男性 139 名（46.6%）に対し有配偶者男性（除く離婚男性）216 名（62.6%）で後者に高く両者間に有意差を認め、「個人の自由･･･」の考えでは未婚男性 94 名(42.6%)、有配偶男性 50 名(14.5%)と後者が有意(p<0.001)に低値を示していた。未婚女性では「自分の責任･･･」が 150 名（59.5%）、有配偶女性 438 名（74.1%）と有意差(p<0.001)を認め、「個人の自由･･･」未婚女性 56 名(22.2%)、有配偶女性 48 名(8.1%)と同様に有意差(p<0.001)を認めた。

このことは、結婚することにより、セックスに対する自己自立が明確に表れてきたものと考える。

表 8. 中学生がセックスをすることについての考え

F 1 性別	F2 年代	自分で責任	しないほうが良い	時代のながれ	個人の自由	不明	総計
男性	<19	31.9	12.8	10.6	42.6	2.1	47
	20-24	34.9	11.6	10.5	38.4	4.7	86
	25-29	45.7	11.4	3.8	35.2	3.8	105
	30-34	56.3	7.1	8.0	24.1	4.5	112
	35-39	59.9	15.3	5.8	15.3	3.6	137
	40-44	69.3	19.8	2.0	7.9	1.0	101
	45<	69.6	15.7	1.0	8.8	4.9	102
集計		54.9	13.5	5.5	22.5	3.6	690
女性	<19	52.7	10.9	5.5	30.9	0.0	55
	20-24	54.0	16.1	3.4	23.0	3.4	87
	25-29	61.9	10.6	8.0	19.5	0.0	113
	30-34	67.6	14.2	4.0	12.5	1.7	176
	35-39	78.4	9.2	2.0	6.5	3.9	153
	40-44	75.0	14.9	2.0	6.1	2.0	148
	45<	79.1	13.3	1.9	4.4	1.3	158
集計		69.8	12.8	3.5	12.0	1.9	890
総計		63.3	13.1	4.4	16.6	2.7	1580

4. セックスに対する関心度

次に、セックスに対する関心度について、「とても関心がある」は男性で 142 名（20.6%）、女性 42 名(4.7%)、「ある程度関心がある」が男性 413 名（59.9%）、女性 402 名（45.2%）であり、「とても」を合わせた関心があるものは、男性で 80.5%、女性 49.9%で関心を持つのは男性が有意に高いことが示された。年代別での男性は 20 歳後半から高くなっており、未既婚別でも既婚者の方が高い値を示していた。女性では 20 歳代が関心度が強く現れ、既婚者よりも未婚者のほうが強いことが窺い知れた。

表 9. セックスに対する関心度

F 1 性別	F2年代	とても	ある程度	あまり	全く	嫌悪	不明	総計
男性	<19	8.5	51.1	27.7	10.6	0.0	2.1	100.0
	20-24	20.9	51.2	22.1	2.3	1.2	2.3	100.0
	25-29	28.6	56.2	12.4	0.0	0.0	2.9	100.0
	30-34	29.5	55.4	11.6	0.0	0.0	3.6	100.0

	35-39	21.2	67.2	9.5	0.0	0.0	2.2	100.0
	40-44	13.9	66.3	12.9	1.0	0.0	5.9	100.0
	45<	13.7	63.7	8.8	2.0	1.0	10.8	100.0
集計		20.6	59.9	13.5	1.4	0.3	4.3	100.0
女性	<19	3.6	40.0	43.6	7.3	1.8	3.6	100.0
	20-24	6.9	54.0	24.1	6.9	2.3	5.7	100.0
	25-29	8.0	55.8	31.9	0.9	1.8	1.8	100.0
	30-34	4.0	44.3	39.2	4.0	1.1	7.4	100.0
	35-39	3.9	49.7	30.1	7.2	2.0	7.2	100.0
	40-44	3.4	37.8	45.3	4.1	1.4	8.1	100.0
	45<	4.4	38.0	46.2	6.3	0.6	4.4	100.0
集計		4.7	45.2	37.8	5.1	1.5	5.8	100.0
総計		11.6	51.6	27.2	3.5	0.9	5.2	100.0

5. 異性と関わることの面倒さ

異性と関わることの面倒さについては、「とても面倒である」が男性で 19 名 (2.8%)、女性 29 名(3.3%)、「ある程度面倒である」男性 193 名 (28.0%)、女性 314 名(35.3%)と後者に高く有意差($p<0.01$ を認めた。男性においては年代間の格差はあまり認められないものの女性においては年齢が高くなるにつれて上昇していることが示されていた。逆に、「全く面倒ではない」と考えるものが男性で 157 名 (22.8%)、女性 128 名 (14.4%) と有意に女性が少ないが、20 歳前半の年代が男性 34.9%、女性 27.6% と最高値を示していた。これらのことは、セックスに対する関心度とよく相関しているようである。

表 10-1. 実際に異性と関わることでの面倒さについて (男性)

性別	年代	とても	ある程度	あまり	全く	嫌悪	無回答	総計
男性	<19	6.4	25.5	46.8	19.1	2.1	0.0	47
	20-24	2.3	23.3	36.0	34.9	0.0	3.5	86
	25-29	3.8	25.7	47.6	21.0	0.0	1.9	105
	30-34	1.8	32.1	35.7	27.7	0.0	2.7	112
	35-39	0.7	23.4	48.2	24.8	0.0	2.9	137
	40-44	4.0	34.7	41.6	14.9	1.0	4.0	101
	45<	2.9	30.4	40.2	15.7	0.0	10.8	102
集計		2.8	28.0	42.3	22.8	0.3	3.9	690

表 10-2. 実際に異性と関わることでの面倒さについて（女性）

性別	年代	とても	ある程度	あまり	全く	嫌悪	無回答	総計
女性	<19	5.5	29.1	45.5	16.4	3.6	0.0	55
	20-24	2.3	24.1	41.4	27.6	0.0	4.6	87
	25-29	2.7	29.2	46.0	19.5	0.9	1.8	113
	30-34	1.1	33.0	42.0	14.8	1.7	7.4	176
	35-39	6.5	37.3	37.9	11.8	0.0	6.5	153
	40-44	2.0	39.9	38.5	11.5	0.7	7.4	148
	45<	3.8	44.3	39.2	7.6	0.0	5.1	158
集計		3.3	35.3	40.9	14.4	0.8	5.4	890
総計		3.0	32.1	41.5	18.0	0.6	4.7	1580

6. コンドーム使用促進について

コンドームに対する認識を「性感染症予防のためにも重要であるが、どのようにすれば利用が増えるか？」という問いに対しての考えを聞いている。それに対して男性は「色々な場所で入手できる」という考えが 188 名(27.2%)と最も高く、女性は「コンドームの有効性を周知する」という考えが 252 名(28.3%)と全体の 4 分の 1 以上を占めており、次に来るのが男性で「有効性･･･」を 178 名(25.8%)とあげており、女性は逆に「色々な場所で･･･」が 200 名(22.5%)であった。次には男性で「値段を安くする」79 名(11.4%)、「使いやすい商品を開発する」78 名 (11.3%)であり、女性は「使いやすい商品･･･」112 名(12.6%)、「安く･･･」96 名(10.8%)であった。

コンドームの使用については、男女間、年代間において若干のプライオリティの違いはあるものの「有効性」を認知させ、「手軽に入手」でき「使いやすく」「価格を安く」という考えを周知しているようである。

表 11-1. 5 歳階級別コンドームの利用率を上げるためには(男性)

性別	年代	安く	容易な入手	パッケージ	ブランド	使いやすい	サイズ	魅力	有効性	痛ない	その他	不明	総計
男性	<19	14.9	19.1	6.4	2.1	10.6	0.0	0.0	29.8	0.0	8.5	8.5	47
	20-24	15.1	26.7	3.5	4.7	11.6	1.2	0.0	20.9	1.2	5.8	9.3	86
	25-29	13.3	36.2	1.0	1.9	11.4	1.9	0.0	19.0	3.8	3.8	7.6	105
	30-34	10.7	30.4	1.8	5.4	13.4	0.0	0.0	19.6	6.3	6.3	6.3	112
	35-39	9.5	24.8	2.9	1.5	11.7	0.7	1.5	28.5	8.0	3.6	7.3	137
	40-44	10.9	30.7	3.0	2.0	7.9	1.0	2.0	32.7	2.0	5.0	3.0	101
	45<	8.8	18.6	3.9	2.9	11.8	0.0	2.9	31.4	2.0	4.9	12.7	102
合計		11.4	27.2	2.9	2.9	11.3	0.7	1.0	25.8	3.9	5.1	7.7	690

表 11-2. 5 歳階級別コンドームの利用率を上げるためには(女性)

性別	年代	安く	容易な入手	パッケージ	ブランド	使いやすい	サイズ	魅力	有効性	痛ない	その他	不明	総計
女性	<19	23.6	25.5	3.6	3.6	7.3	1.8	0.0	18.2	3.6	1.8	10.9	55
	20-24	13.8	17.2	4.6	3.4	13.8	0.0	2.3	28.7	3.4	5.7	6.9	87
	25-29	8.0	28.3	2.7	6.2	12.4	0.0	0.0	28.3	7.1	4.4	2.7	113
	30-34	7.4	23.3	2.8	3.4	13.1	0.0	0.6	27.8	9.1	6.8	5.7	176
	35-39	11.8	20.3	4.6	3.3	14.4	0.0	0.0	26.1	3.9	4.6	11.1	153
	40-44	9.5	20.3	2.7	2.0	12.8	1.4	0.7	31.1	6.1	4.1	9.5	148
	45<	10.8	23.4	5.1	1.9	11.4	0.0	0.0	31.6	4.4	2.5	8.9	158
2 合計		10.8	22.5	3.7	3.3	12.6	0.3	0.4	28.3	5.7	4.5	7.9	890
総計		11.1	24.6	3.4	3.1	12.0	0.5	0.7	27.2	4.9	4.7	7.8	1580

7. 低用量ピルの認識

低用量ピルに対する認識度については、男性で「よく知っている」40 名(5.8%)、「ある程度知っている」342 名(49.6%)と 5 割強のものは知っているが、女性は「よく」が 98 名(11.0%)、ある知度･･･」483 名(54.3%)と 10 ポイント以上高く女性の方がピルに対する認知度は有意に高かった。

このことは年代間においても男女間の違いはみられないが、若い群において認知度が低いことが明らかであり、未既婚別での違いには顕著なものはみられなかった。

表 12-1. 5 歳階級別低用量ピルに認知度（男性）

性別	年代	よく	ある程度	あまり	まったく	無回答	総計
男性	<19	8.5	48.9	19.1	23.4	0.0	47
	20-24	5.8	47.7	31.4	14.0	1.2	86
	25-29	6.7	47.6	39.0	5.7	1.0	105
	30-34	4.5	53.6	31.3	7.1	3.6	112
	35-39	2.9	46.0	40.1	8.8	2.2	137
	40-44	5.0	60.4	26.7	6.9	1.0	101
	45<	9.8	43.1	34.3	7.8	4.9	102
合計		5.8	49.6	33.2	9.3	2.2	690

表 12-2. 5 歳階級別低用量ピルに認知度（女性）

性別	年代	よく	ある程度	あまり	まったく	無回答	総計
女性	<19	9.1	50.9	25.5	14.5	0.0	55
	20-24	12.6	49.4	26.4	9.2	2.3	87
	25-29	15.9	54.0	26.5	3.5	0.0	113
	30-34	11.9	56.3	28.4	2.8	0.6	176
	35-39	11.8	54.2	25.5	5.2	3.3	153
	40-44	9.5	61.5	22.3	4.7	2.0	148
	45<	7.0	49.4	34.2	7.0	2.5	158
合計		11.0	54.3	27.3	5.7	1.7	890
総計		8.7	52.2	29.9	7.3	1.9	1580

低用量ピルに対する認知度として「ある程度知っている」以上が男性で 55.4%、女性 65.3%という数値では、ピル普及には不十分な値と思われ、少なくとも 80%以上の値まで底上げしていく啓発活動も重要なことと考えられる。

8. 緊急避妊ピルについて

緊急避妊ピルについて聞いたことがあるか否かについて、「聞いたことがある」が男性は 117 名（17.0%）、女性 211 名（23.7%）であり、両者間に有意差($p<0.01$)を認めた。年代別では男女共に 20 歳前半の認知度がもっとも高く、年齢が高くなるにつれ低下していた。また、未既婚別でみると、聞いたことがある未婚男性は 64 名（21.5%）、既婚男性 49 名(14.2%)と後者が低く有意差($p<0.05$)を認めたが、女性では未婚 68 名（27.0%）、既婚 134 名（22.7%）と男性同様未婚者の方が多かったが両群の間に有意差は認めなかった。

表 13-1. 5 歳階級別緊急避妊の認知度（男性）

性別	F2 年代	ある	ない	無回答	総計
男性	<19	21.3	78.7	0.0	47
	20-24	27.9	67.4	4.7	86
	25-29	19.0	79.0	1.9	105
	30-34	14.3	80.4	5.4	112
	35-39	12.4	81.8	5.8	137
	40-44	13.9	84.2	2.0	101
	45<	15.7	78.4	5.9	102
合計		17.0	79.0	4.1	690

表 13-2. 5 歳階級別緊急避妊の認知度（女性）

	年代	ある	ない	無回答	総計
女性	<19	16.4	78.2	5.5	55
	20-24	33.3	64.4	2.3	87
	25-29	29.2	68.1	2.7	113
	30-34	27.3	69.9	2.8	176
	35-39	22.2	73.9	3.9	153
	40-44	23.0	75.0	2.0	148
	45<	15.2	82.3	2.5	158
合計		23.7	73.4	2.9	890
総計		20.8	75.8	3.4	1580

実際に緊急避妊ピルを使用したか否かについてみると、男性は使用させたことのあるものが 9 名（1.3%）、女性の経験者は 16 名(1.8%)と両者間に有意差は認めなかった。更に、2 回以上の複数回の経験者は男性側で 5 名（55.6%）であり、女性は 10 名（62.5%）と両者間に有意差は認めないものの 1 度経験すると繰り返す可能性の高いことが示された。

未既婚別でみると、未婚男性 5 名(1.7%)、既婚男性 4 名（1.2%）であり、未婚女性 5 名(2.0%)、既婚女性 8 名（1.4%）と後者が低いものの有意差は認めなかった。

このことは、後述する低用量ピルの使用率よりも高い値といえる。このことは、実際に妊娠するかもしれないという現実に直面するから、それを回避せざるを得ないという行動の現われと考える。しかしながら、緊急避妊の認知度もピル以上に低いことにも問題が残されているのではと考える。

表 14-1. 5 歳階級別緊急避妊ピルの利用率(男性)

性別	年代	1 回	2 回	3 回以上	利用ない	わからない	無回答	総計
男性	<19	0.0	0.0	0.0	80.0	20.0	0.0	10
	20-24	4.2	0.0	0.0	95.8	0.0	0.0	24
	25-29	0.0	0.0	5.0	90.0	5.0	0.0	20
	30-34	12.5	0.0	0.0	75.0	12.5	0.0	16
	35-39	0.0	5.9	5.9	76.5	5.9	5.9	17
	40-44	0.0	7.1	0.0	85.7	0.0	7.1	14
	45<	6.3	0.0	6.3	81.3	6.3	0.0	16
合計		3.4	1.7	2.6	84.6	6.0	1.7	117

表 14-2. 5 歳階級別緊急避妊ピルの利用率(女性)

	F2 年代	1回	2回	3回以上	利用ない	わからない	無回答	総計
女性	<19	0.0	0.0	0.0	77.8	11.1	11.1	9
	20-24	3.4	0.0	0.0	96.6	0.0	0.0	29
	25-29	3.0	6.1	0.0	90.9	0.0	0.0	33
	30-34	2.1	0.0	4.2	87.5	6.3	0.0	48
	35-39	2.9	2.9	0.0	91.2	2.9	0.0	34
	40-44	2.9	2.9	8.8	85.3	0.0	0.0	34
	45<	4.2	4.2	0.0	83.3	8.3	0.0	24
合計		2.8	2.4	2.4	88.6	3.3	0.5	211
総計		3.0	2.1	2.4	87.2	4.3	0.9	328

9. 適切と判断する避妊法について

現時点で適切と判断する避妊法について、男性は第一にあげるのはコンドームで 645 名(93.5%)、次が膣外射精 112 名(16.2%)、ピル 97 名(14.1%)、基礎体温 57 名(8.3%)、オギノ式 55 名(8.0%)などの順であった。

表 15-1. 5 歳階級別現時点での適切な避妊法（男性）

性別	F2 年代	コンドーム	ピル	フイルム	オギノ式	BBT	膣外射精	女性用コンドーム	ペッサリー	緊急避妊	IUD	この中にない	無回答	総計
男性	<19	87.2	14.9	4.3	14.9	14.9	12.8	10.6	4.3	0.0	4.3	10.6	6.4	47
	20-24	95.3	14.0	1.2	10.5	15.1	25.6	8.1	4.7	0.0	2.3	4.7	1.2	86
	25-29	97.1	16.2	5.7	6.7	5.7	13.3	7.6	5.7	1.0	4.8	1.0	1.9	105
	30-34	95.5	15.2	3.6	6.3	3.6	17.9	9.8	2.7	0.0	4.5	0.0	1.8	112
	35-39	94.9	11.7	4.4	10.9	9.5	14.6	8.0	1.5	0.0	1.5	0.7	1.5	137
	40-44	94.1	11.9	2.0	6.9	7.9	17.8	6.9	5.0	0.0	5.0	1.0	5.0	101
	45<	86.3	15.7	0.0	2.9	5.9	11.8	3.9	2.0	0.0	4.9	1.0	7.8	102
合計		93.5	14.1	3.0	8.0	8.3	16.2	7.7	3.5	0.1	3.8	1.9	3.3	690

女性が適切と判断する避妊法は、第一がコンドームで796名（89.4%）、次いで基礎体温法208名(23.4%)、ピル191名(21.5%)、膣外射精 121 名（13.6%）、オギノ式 112 名（12.6%）、IUD84 名（9.4%）などの順であった。男女間で有意差の認められたものは、コンドームが p<0.01 と男性に多く、ピルは p<0.001、基礎体温 p<0.001、オギノ式 p<0.01、IUDp<0.001 と女性に多いことが示されていた。

また、未既婚別で有意な違いが認められたのは、低用量ピルで未婚女性は 73 名(29.0%)、既婚女性 105 名（17.8%）と未婚女性が多く選択していることが示されていた(p<0.001)。

後述するV節 6 項の低用量ピルに対する意識で述べるように「ピルを使っている」「使いたい」が男性で 12.7%、女性 9.1%であることから考えると理想論的考えが含まれていると思われる。

表 15-2. 5 歳階級別現時点での適切な避妊法（女性）

性別	F2 年代	コンドーム	ピル	フイルム	オギノ式	BBT	膣外射精	女性用コンドーム	ペッサリー	緊急避妊	IUD	この中にない	無回答	総計
女性	<19	83.6	25.5	0.0	10.9	21.8	7.3	16.4	3.6	0.0	3.6	0.0	3.6	55
	20-24	93.1	26.4	1.1	18.4	27.6	17.2	14.9	4.6	0.0	3.4	6.9	2.3	87
	25-29	92.0	34.5	1.8	10.6	21.2	12.4	8.0	4.4	0.9	10.6	0.0	1.8	113
	30-34	91.5	22.7	2.8	9.7	22.7	11.4	8.0	3.4	0.0	7.4	0.0	2.3	176
	35-39	87.6	15.7	3.3	13.1	26.1	11.8	5.2	5.2	0.7	11.8	0.7	5.2	153
	40-44	91.9	16.9	2.0	13.5	18.9	14.2	4.7	2.0	0.0	11.5	2.7	3.4	148
	45<	84.8	16.5	1.9	13.3	25.3	18.4	10.8	3.2	0.6	12.0	0.6	3.8	158
合計		89.4	21.5	2.1	12.6	23.4	13.6	8.7	3.7	0.3	9.4	1.3	3.3	890
総計		91.2	18.2	2.5	10.6	16.8	14.7	8.2	3.6	0.3	7.0	1.6	3.3	1580

Ⅲ. 性行動の実態

1. 性交経験者

調査対象となった全体における性交経験者は、男性で 566 名(82.0%)、女性 763 名（85.7%）であり、2002 年調査の男性 83.9%、女性 80.5%に比べ、女性が 5.7 ポイント上昇していた。

年代別でみると 20 歳未満では男性が 11